

令和3年度 コミュニティからのご意見

本島コミュニティ

ご意見 1	<p>島の玄関口である本島港の再整備</p> <p>本島は、戦国時代には塩飽水軍が活躍し、江戸時代には海運で栄えるなど、今も歴史情緒あふれる文化財の宝庫として広く知られている。</p> <p>また、来年は本島において瀬戸内国際芸術祭の開催を予定しており、多くの観光客が本島に訪れることが予想される。</p> <p>そういった中、港に目を向けると、港周辺の道路状況も凹凸が目立つ状態である。</p> <p>高齢化・過疎化が進む本島コミュニティにおいて、観光客の増加は、島の活性化が期待できる重要なファクターである。</p> <p>コロナ禍が終息した折は、観光客を誘客できるようコミュニティとしても取り組んでいきたいが、ハード面の整備として「ようこそ、本島へ」といった歓迎看板の設置や、周辺道路舗装、安全対策として波止の完備など、港を利用しやすい環境整備をお願いしたい。</p> <p>(回答)</p> <p>○本島の看板</p> <p>本島は、瀬戸内国際芸術祭が開催されるアートの島、また、日本遺産の認定を受けた「石の島」として、内外から多くの観光客が訪れることから、港に歓迎看板を設置することは、本島をさらにPRする有効な手法であると考えております。今後、島民の皆様のご意見等をうかがいながら、本島の玄関口にふさわしい看板を含めたPR方法を検討してまいりたいと思います。</p> <p>○周辺道路の舗装</p> <p>地元からのご要望や道路パトロール等で現地確認し、修繕が必要な箇所から順次、修繕してまいります。</p> <p>○波止の完備</p> <p>フェリー乗り場から北側の車止め等が整備されている物揚場の一部で岸壁の高さが低い箇所がありますので、前後の岸壁の高さに合うように嵩上を行い波止めとしての整備を行いたいと考えています。</p>
ご意見 2	<p>本島港浮棧橋の安全性の確保</p> <p>本島・牛島島民が生活する上で、本島港は欠かせない場所である。</p> <p>それは、日々の買い物、病院などへの通院、会社・学校への通勤・通学など、あらゆる場面で、船での移動が必要不可欠だからである。</p> <p>そういった中、今の本島港浮棧橋は構造上の問題なのか段差ができています。また、海は満ち引きがあるため、どうしても干潮時は急傾斜となり、雨天時などでは転倒する人も多い。</p> <p>本島コミュニティの高齢化率は非常に高く、利用者にとって今の浮棧橋は生命にもかかわってくるような危険もはらんでいるので、対応をお願いしたい。</p> <p>(回答)</p> <p>本島港浮棧橋は、1970年に設置し51年が経過しています。その間、部分的な補修</p>

	<p>や塗装の塗り替えを行い、延命に努めてきました。</p> <p>しかしながら、特に浮棧橋連絡橋の陸側の取付部分で老朽化が進んでおり、現在、連絡橋の更新も視野に入れた修繕の計画を策定しているところであります。</p> <p>今後は、ご意見のあった段差の解消や雨天時の滑り止め対策なども含めた計画を策定し島民の方々が安心して利用できる浮棧橋の整備を行ってまいりますのでご理解ご協力をお願いいたします。</p>
<p>ご意見 3</p>	<p>本島泊地区海岸沿いの市道拡幅</p> <p>おもに本島西側地区の住民にとって泊地区の海岸沿いの市道は、港や診療所へとつながる重要な道路である。</p> <p>にもかかわらず、当該区間のうちの一部は非常に道幅が狭く、軽自動車同士がようやくすれ違えるような幅となっており、大型車が通行するようなことがあれば、混乱が避けられない。</p> <p>安全運転はコミュニティ住民も心掛けているが、コミュニティ内の交通安全をハード面で支えていただきたい。</p> <p>(回答)</p> <p>ご要望の市道松ヶ浦1号線は、県道本島循環線を結ぶ市道で、本島港や診療所を連絡しており、島内における幹線道路を補完する重要な路線と認識しております。しかしながら、ご指摘のとおり2車線の県道から幅員4m程度の道路となり、急に狭くなることから利用者にとっては車のすれ違い時などにご不便を感じているものと思われれます。</p> <p>今後、現地の状況を確認する中で、どれくらいの拡幅が必要かなどについて、地元のご意見もお聞きしながら、事業化に向けての事前調査を行いたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。</p>